



## 個人投資家様向け会社説明会



株式会社 **大気社**

東証1部(証券コード:1979)

2019年9月19日

# ～ 本日も説明する内容 ～

1. 当社事業の紹介
2. 当社の強み
3. 成長戦略
4. 業績の推移
5. 株主還元

# 1. 当社事業の紹介

## 1 - 1. 会社概要

会社名	株式会社大気社
代表者	加藤 考二 代表取締役社長執行役員
本社所在地	東京都新宿区西新宿8-17-1 住友不動産新宿グランドタワー
創業	1913年(大正2年)4月10日
株式	東証1部上場 (コード:1979)
資本金	64億55百万円
連結年間売上高	2,254億円 (2019年3月期実績)
従業員数	個別1,472名 連結4,829名 (2019年3月末現在)
連結子会社	38社 (国内3社 海外35社)
事業内容	ビル空調設備、産業空調設備、自動車用塗装システムにおける諸設備・装置の設計・施工・監理

# 1 - 2. 事業分野

## 3つの分野で安定した経営を行なっています



環境システム事業

**①ビル空調**  
 オフィスビルをはじめ、学校、病院、ホテル、美術館、空港ターミナルなど、さまざまな施設の中で、人が快適に過ごすための空調設備の設計、施工を行なっています。  
 ★都心の再開発計画など、需要は底堅く推移する見通し

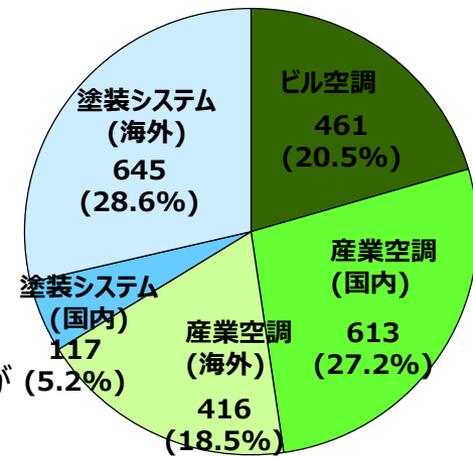
**②産業空調**  
 電気・電子部品、医薬品の分野など、製造過程で高潔浄環境が要求される生産工場や研究施設を対象にクリーンルームなど“モノづくり”にとって最適な空調設備の設計、施工を行っています。また排気処理装置などの環境保全装置にも注力しています。  
 ★5Gの導入や自動車の電装化に合わせ、電子部品メーカーの投資が続く見通し



塗装システム事業

**③塗装システム**  
 国内自動車メーカー、米国、中国、インド、欧州などの自動車メーカーの大型塗装プラントの設計・施工を国内外で手がけています。省エネルギーと高度な公害防止機能を調和させる大気社の自動車塗装プラントは、世界トップクラスの売上を誇ります。  
 ★世界における自動車の生産台数は今後も増加する見込み

完成工事高（売上高）の構成（2019年3月期実績）



## 1 - 3. 主要顧客

### ①ビル空調分野

ゼネコン、不動産会社、ホテル、百貨店、総合スーパー、病院、学校、鉄道会社、  
官公庁 など

### ②産業空調分野

電気・電子部品メーカー、製薬メーカー など

### ③塗装システム分野

日系および各国の自動車メーカー など

## 2. 当社の強み

## 2. 当社の強み

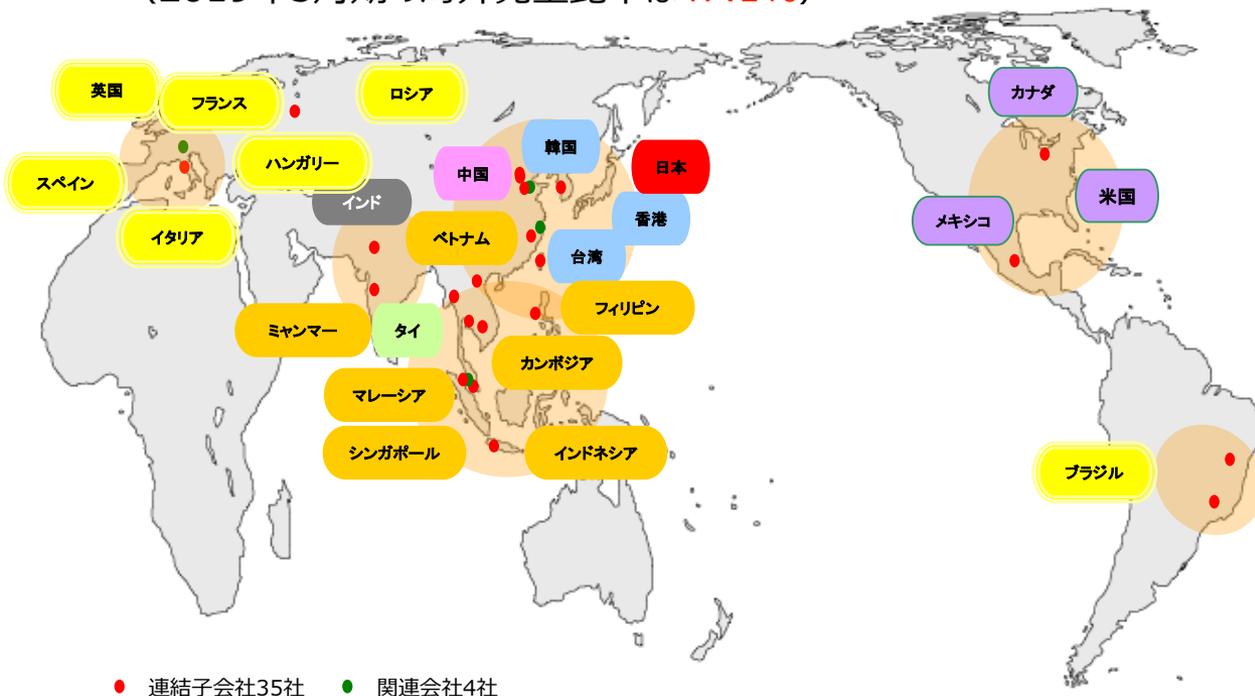
1. 強力なグローバルネットワーク
2. 世界第2位の売上げを誇る  
自動車塗装プラント事業
3. 事業の柔軟性

## 2 - 1. 強力なグローバルネットワーク①

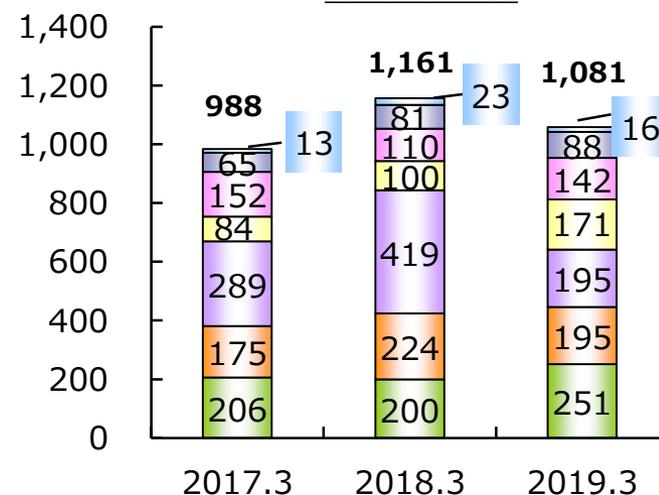
現地に拠点を有することによる充実した顧客サポート体制と、  
現地化の推進によるコスト競争力が強み

- ・最初に海外に拠点を設立したのはタイ国で、1971年のことでした。
- ・建設業の中で当社は海外売上比率が極めて高いことが特徴で、同業他社に比べ圧倒的に多い

18カ国に35の海外連結子会社を有しています。  
(2019年3月期の海外売上比率は47.1%)



地域別売上高



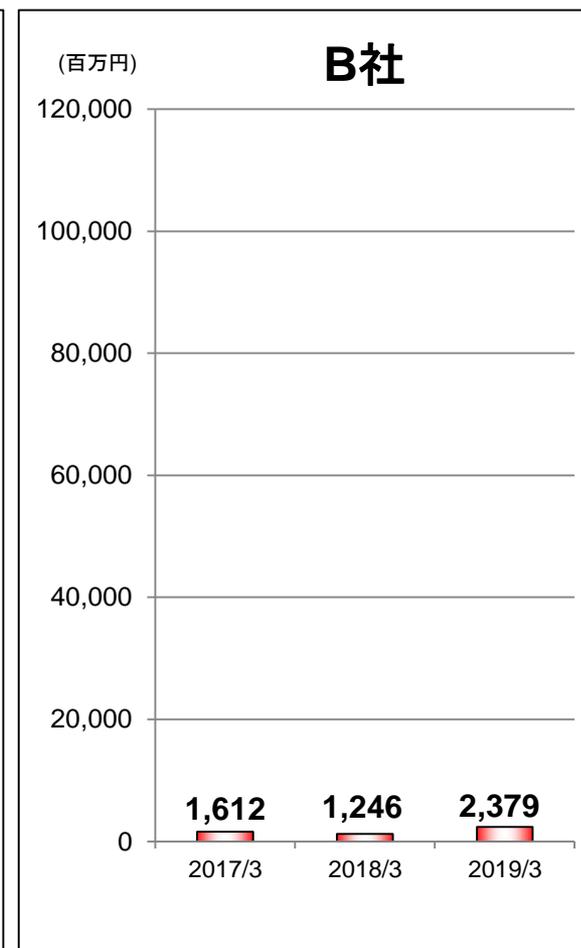
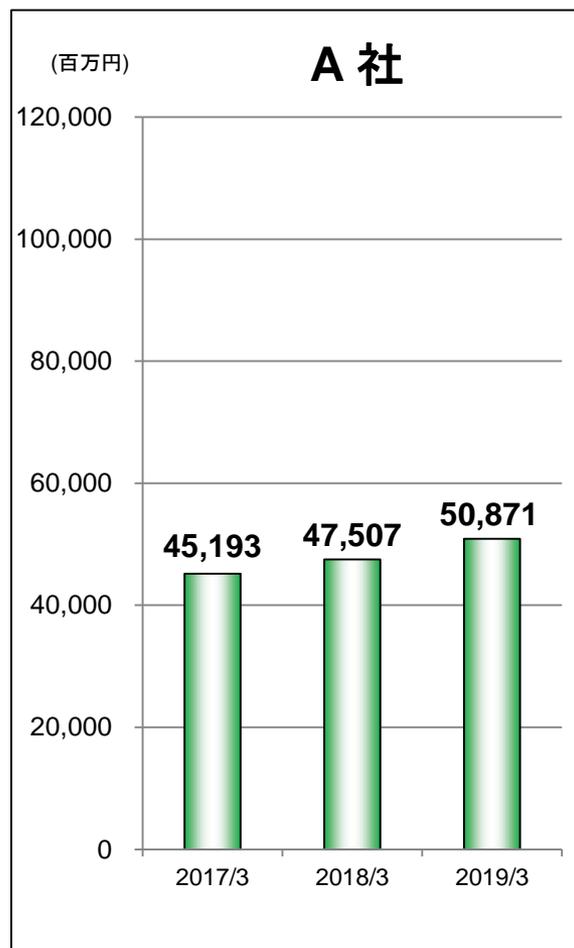
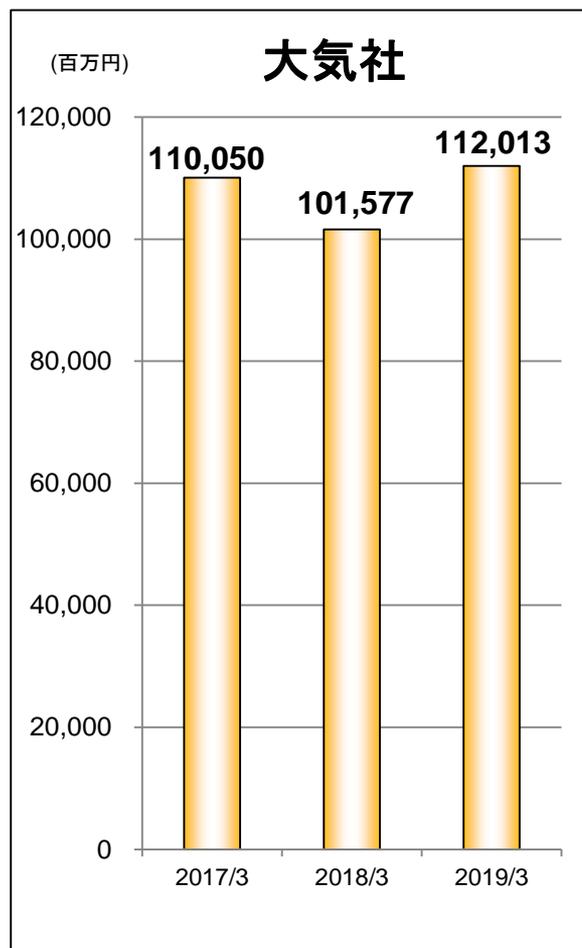
- タイ
- 北米
- 中国
- その他の東アジア
- その他の東南アジア
- その他
- インド

備考：当セグメントデータは、外部顧客への完成工事高のみの数値です。  
●主な国または地域  
・東南アジア - - シンガポール、マレーシア、インドネシア、フィリピン、ベトナム、他  
・東アジア - - - 台湾、韓国  
・北米 - - アメリカ、カナダ、メキシコ  
・その他地域 - - ロシア、南米、他

## 2-1. 強力なグローバルネットワーク②

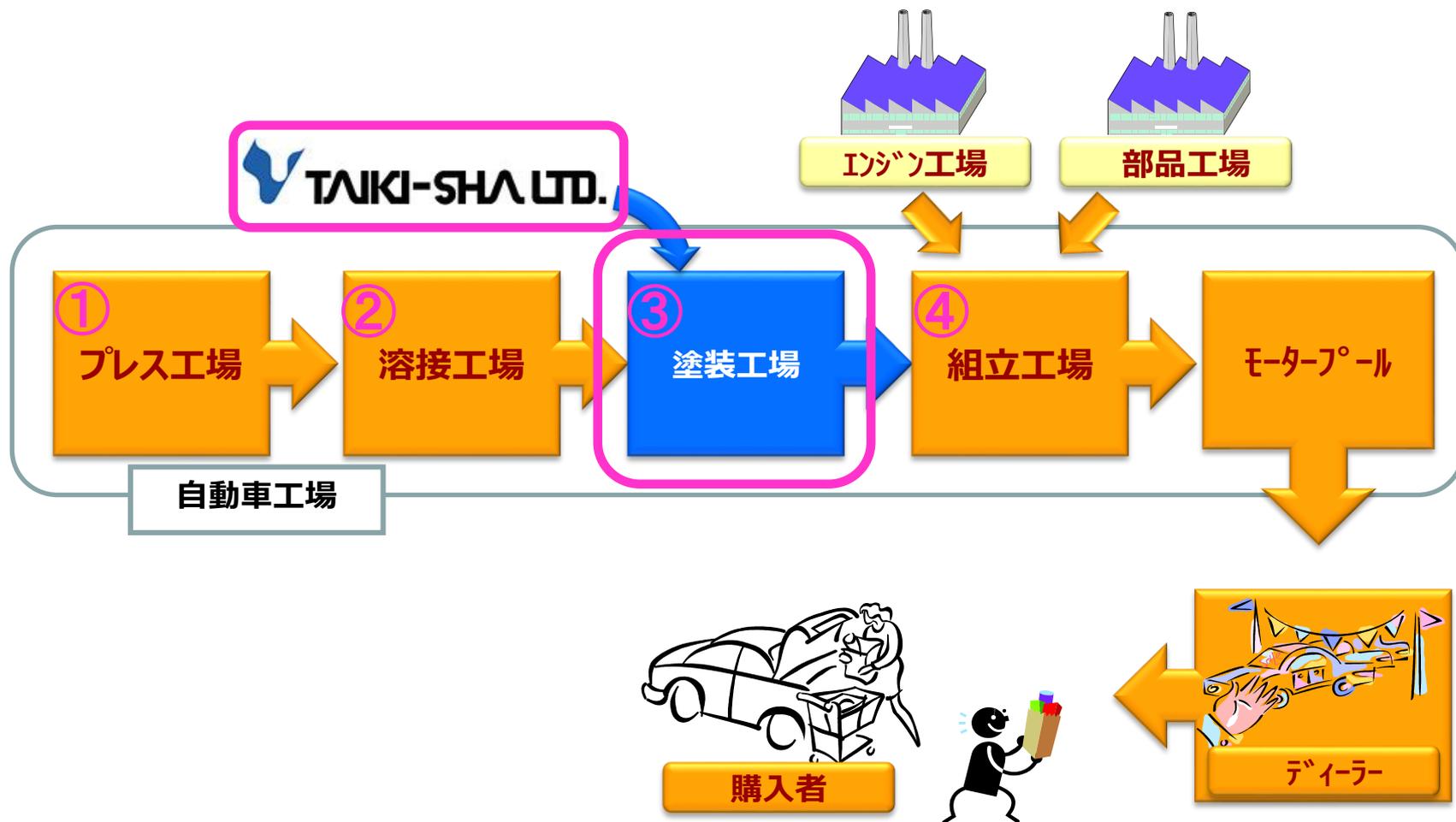
### 海外受注工事高

同業他社を大きく引き離す海外受注工事高



## 2-2. 世界第2位の売上げを誇る自動車塗装プラント事業①

### 自動車生産工場における塗装工場



## 2-2. 世界第2位の売上げを誇る自動車塗装プラント事業②

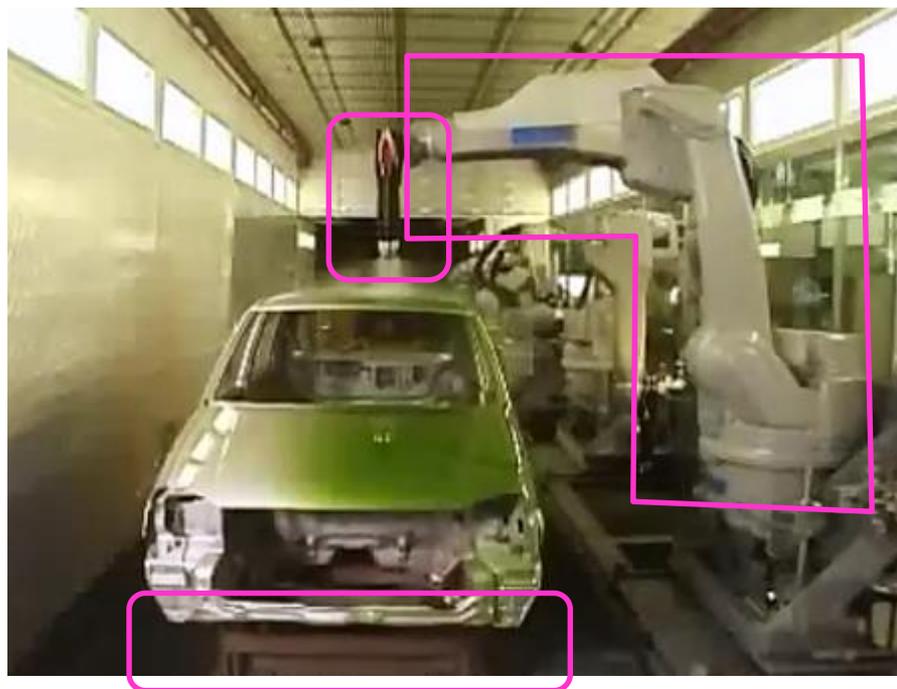
### 塗装ブースイメージ



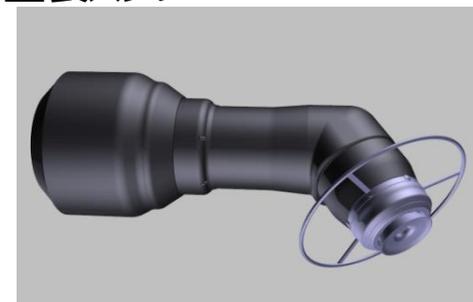
## 2-2. 世界第2位の売上げを誇る自動車塗装プラント事業③

### 自動車塗装ラインの一括受注が可能

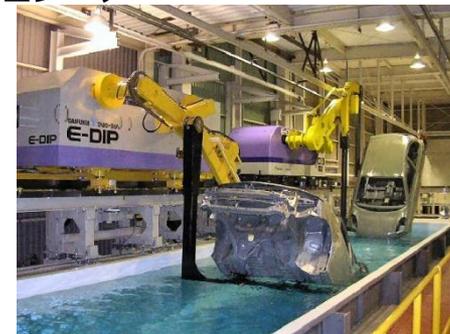
- 塗装ロボット



- 塗装スプレー



- コンベア

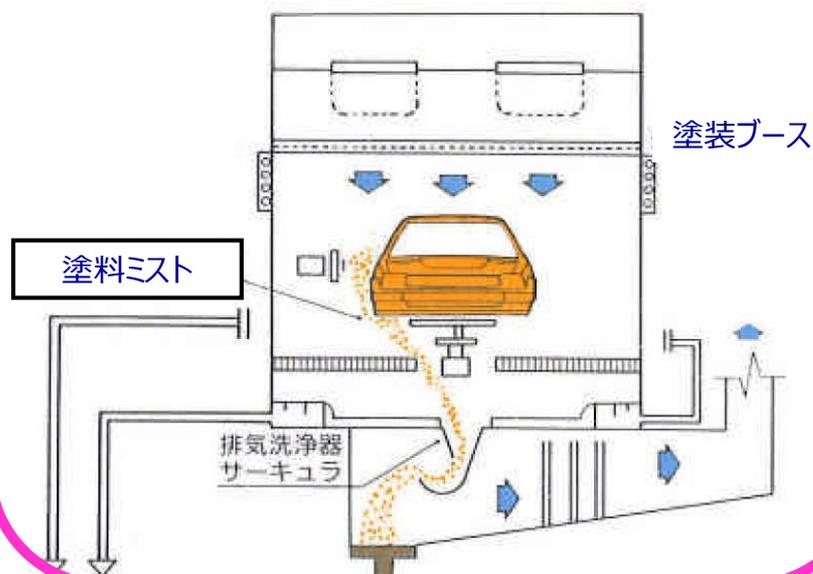


### 自動車塗装システムで国内トップ・世界第2位の売上

世界の自動車生産台数は、2018年に約9,400万台でしたが、4年後の2022年には1億台を超えと言われており、引き続き当事業の成長を見込んでいます。

## 2-2. 世界第2位の売上げを誇る自動車塗装プラント事業④

### ■ 塗装ブース(断面図)



### ■ オープン (乾燥炉)



### 塗装システムには各種空調の技術が活かされている

#### 【塗装ブース】

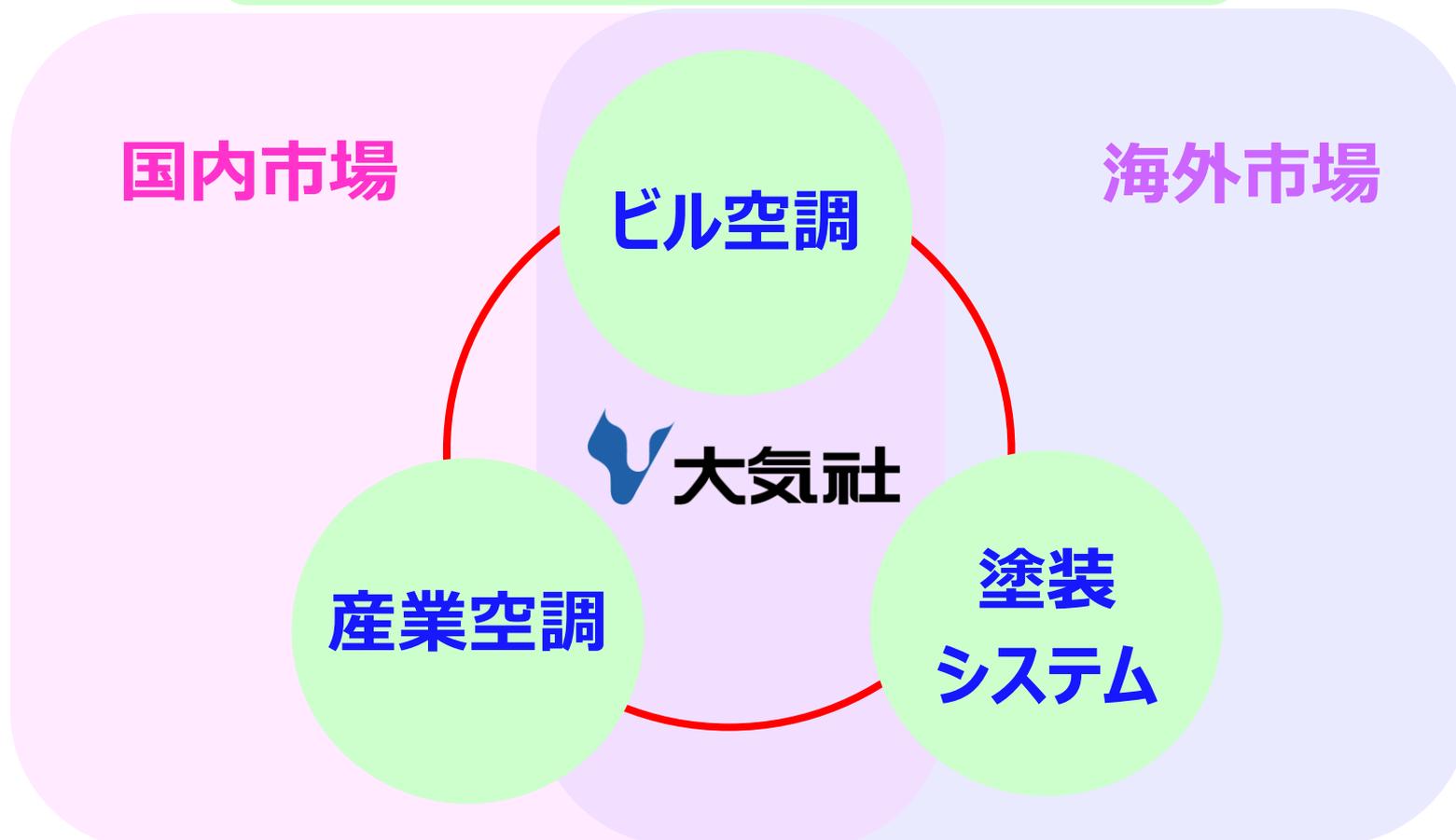
- ・ブース内は高い清浄度を保ち、ボディへの埃の付着を防ぐ。
- ・最適な温湿度を保つ。
- ・天井から床下への気流の流れをつくり、塗装時に付着しなかった塗料ミストを拡散させることなく、速やかに除去する。

#### 【オープン (乾燥炉)】

- ・最適な温湿度の空気で、塗装したボディの塗膜をむらなく乾燥させる。

## 2-3. 事業の柔軟性

市場環境の変化に対する高い柔軟性  
上場以来経常赤字なし



## 3. 成長戦略

## 3 - 1. 環境システム事業における成長戦略①

### 海外市場向けの体制拡充 (1/2)

#### 未進出国への事業エリア拡大

顧客の投資先地域の変化に合わせて、当社の未進出国へも積極的に進出してまいります。

大気社グループは、タイ、ベトナム、カンボジア、シンガポール、マレーシア、インドなど東南アジアを中心に、多くの連結子会社を有しており、新規進出国における事業活動に対して万全のサポート体制が整っています。

その優位性を生かし、積極的に営業活動を展開してまいります。



Taikisha Myanmar Co., Ltd. (大気社ミャンマー)



大気社ミャンマー開設記念パーティー

## 3 - 1. 環境システム事業における成長戦略②

### 海外市場向けの体制拡充 (2/2)

#### 電気事業の対応力強化

2017年1月に当社のタイ子会社である Taikisha (Thailand) Co., Ltd. はタイ国の配電盤製造会社 BTE Co., Ltd. (以下「BTE社」) に資本参加を行いました。

海外での非日系顧客の案件においては空調・衛生・電気工事を一括で発注するケースが多いため、電気工事の技術力を強化すべく、今回の資本参加を実施しました。

当社は1971年にタイに拠点を設立以来、半世紀近くにわたり現地に根付いた活動を着実に積み重ねてきました。今回の資本参加を機に、さらなる現地化の推進を図ってまいります。



## 3 - 1. 環境システム事業における成長戦略③

### 新規事業の立ち上げ

#### 完全人工光型植物工場事業への参入

当社は2009年6月より当事業について研究開発を行ってきました。

これまで不可能と言われてきた完全人工光型植物工場での結球レタスの安定量産化技術を確立。国内だけでなく海外のお客さまもターゲットに、「ベジファクトリー」の製品名で植物工場システムを販売しております。

当事業の売上規模拡大を目指し、国内外に栽培技術の実証や設備のPRを行う施設を有しております。

#### 実証開発センターの設立（東京都 板橋）

顧客に大気社ブランドの量産栽培状況を見学していただくとともに、顧客からのニーズの多い、栽培環境を変えて行う品質改善、量産技術、新商品開発などの実証にフレキシブルに対応していきます。



#### デモセンターの設立（タイ国 アユタヤ）

製品サンプルとして商品レベルのレタスの栽培を行うとともに、ショールームとしての機能を有しており、ASEAN圏へのPR拠点として、ベジファクトリーや生産品のブランド化を推進していきます。



## 3-2. 塗装システム事業における成長戦略①

### グローバル対応と受注活動の強化

2011年5月、塗装設備会社であるGeico S.p.A.社（本社：イタリア・ミラノ市）と業務・資本提携（大気社の出資比率は51%）を行いました。この提携は、両社の持つ技術面および市場面での強みを補完し、さらに強化することを目的としています。

Geico S.p.A.社との提携により、これまで多くの欧州系自動車メーカーにおける大型物件を受注しております。

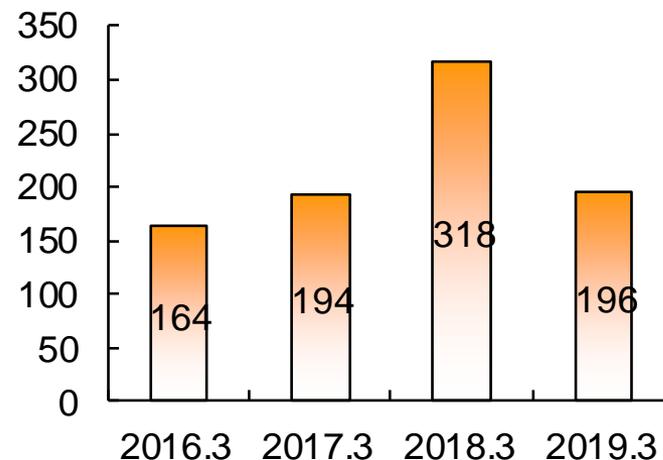


#### «Geico S.p.A.社の強み»

- ・イタリア、フランス等の欧州系自動車メーカーに数多くの実績がある。

#### Geico社グループの完成工事高

単位：億円



## 3 - 2. 塗装システム事業における成長戦略②

### 事業領域の拡大

2014年6月、Encore Automation LLC社（本社：アメリカ ミシガン州）と業務・資本提携（大気社の出資比率は51%）を行いました。

Encore社は当社の塗装システム事業部のオートメーション事業所と同じロボットアプリケーションシステムのエンジニアリング会社であります。

Encore社との協業により、今後北米市場において、塗装システムのロボットアプリケーション事業の更なる拡大、アフターサービス体制の一層の拡充を推し進めてまいります。

さらに、当社海外ネットワークを通じ、Encore社固有技術の北米以外の地域での海外展開の拡大を目指します。

«Encore社の独自技術»

1. 飛行機塗装システム
2. 自動ワイピングシステム  
⇒塗装前に塗装面の埃を除去するシステム
3. 自動ポリッシングシステム  
⇒塗装前に塗装面を磨き、塗装の仕上がりを向上させるシステム

«Encore社の主な取引先»

北米系自動車メーカーおよび航空機メーカー



飛行機自動塗装システム

## 3-2. 塗装システム事業における成長戦略③

### 技術開発体制の強化

2019年2月、塗装システム事業の新たな技術開発拠点となる「テクニカルセンター」（所在地：神奈川県座間市）を開設いたしました。

当施設においては、革新的な環境対応、省エネルギー、品質向上技術の開発に取り組んでいます。たとえば、塗料を液滴単位（液体のつぶ、したたりの単位）でコントロールし、画期的に塗着効率を高める塗装システム、超省エネルギー型塗装ブース、IoT・AIを活用したシステムなどの開発に取り組んでいます。

また、航空機向けなど、自動車以外の自動塗装システムに関する実験設備も導入しております。



## 4. 業績の推移

## 4. 業績・市場環境の見通し

単位：億円

	2019.3実績	2020.3予想	2022.3中計目標
受注工事高	2,418	2,398	2,650
完成工事高	2,254	2,390	2,600
経常利益	150	153	160
(同率)	6.7%	6.4%	6.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	88	97	100
ROE	8.3%	—	8%以上

### (環境システム事業)

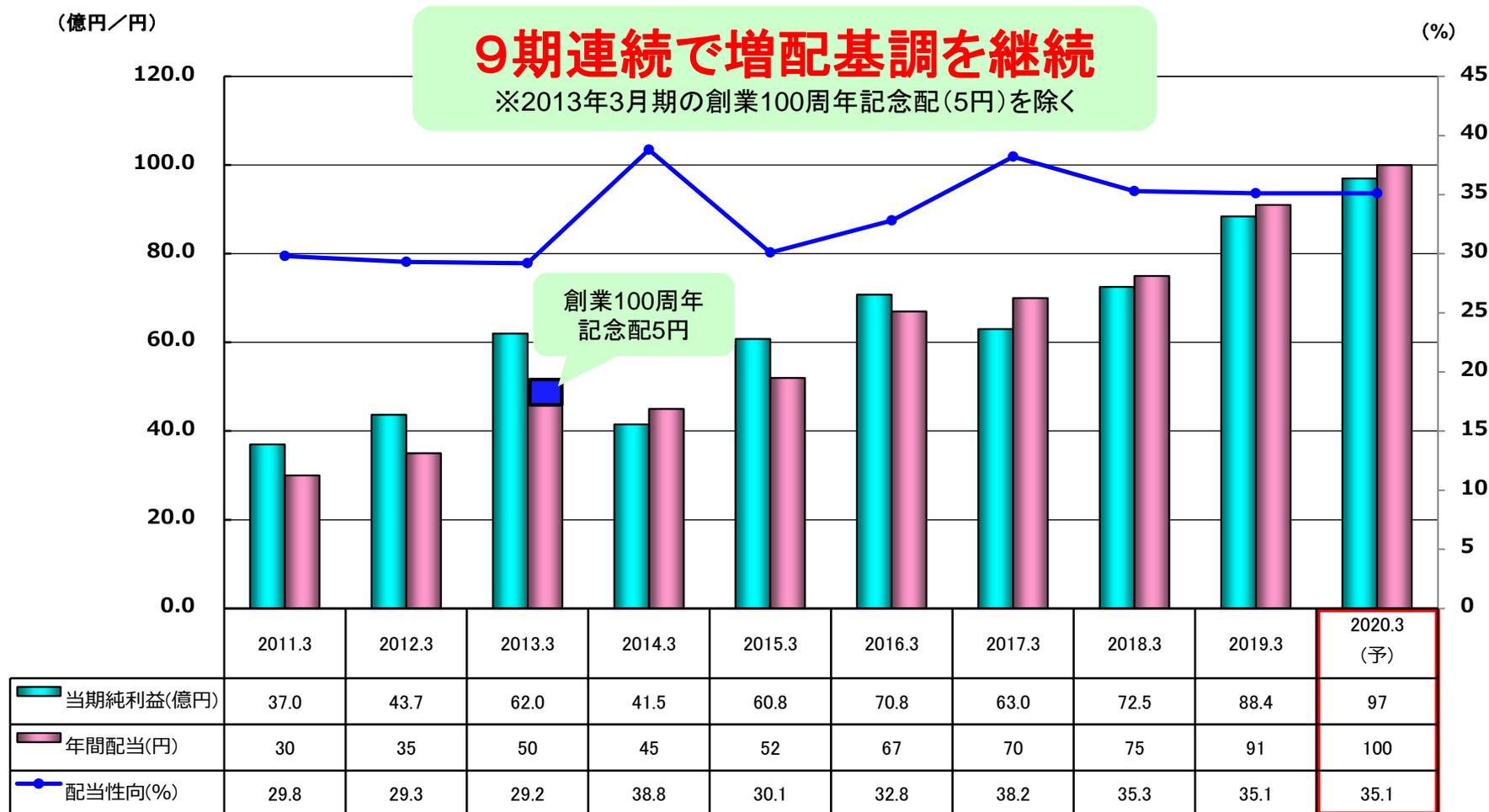
- ビル空調は旧耐震基準のビルの建て替え・リニューアル、再開発等のニーズが存続する見込み。
- 国内産業空調は電子部品メーカーが、第5世代移動通信システム(5G)や自動車の電装化に合わせ投資を継続する見込み。
- 海外産業空調は日系メーカーによる設備投資回復の見通しについては引き続き不透明感があるものの、需要は底堅く推移する見込み。

### (塗装システム事業)

- 北米・欧州・日本などで設備更新投資、中国・インドなどで増産投資が継続する見込み。

## 5. 株主還元

## 5. 株主還元・株価① 当期純利益と配当の推移



・連結配当性向35%を目標とし、安定的な配当を実施する。

## 5. 株主還元・株価②

### 自己株式の取得・消却

#### 取得実績

実施年月	株数 (千株)	単価 (円)	金額 (百万円)
2005年12月	40	1,933	77
2006年 2月	597	1,780	1,062
2006年7,8月	500	1,401	700
2011年 8月	300	1,576	472
2012年11月	600	1,614	968
2013年12月	800	2,170	1,736
2015年5月	680	3,245	2,206
2016年11月	356	2,805	999
2017年11,12月	136	3,654	499

#### 消却実績

実施年月	株数 (千株)	単価 (円)	金額 (百万円)
2008年 8月	1,200	1,593	1,912
2018年 2月	1,700	2,443	4,154

#### 処分実績 (ESOPにて)

実施年月	株数 (千株)	単価 (円)	金額 (百万円)
2013年 2月	180	1,860	334

(参考)

# (参考) 2020年3月期業績予想①

## 事業部別予想値

単位：億円

	2018.3			2019.3			2020.3								
	環境システム	塗装システム	全社	環境システム	塗装システム	全社	環境システム			塗装システム			全社		
							上期(E)	下期(E)	通期(E)	上期(E)	下期(E)	通期(E)	上期(E)	下期(E)	通期(E)
受注工事高	1,475	723	2,198	1,585	833	2,418	700	910	1,610	412	376	788	1,112	1,286	2,398
完成工事高	1,399	919	2,318	1,491	762	2,254	780	825	1,605	326	459	785	1,106	1,284	2,390
営業利益	115	9	121	131	14	140	61	73	134	3	18	21	59	87	146
(同率)	8.3%	1.1%	5.3%	8.8%	2.0%	6.2%	7.8%	8.8%	8.3%	0.9%	3.9%	2.7%	5.3%	6.8%	6.1%
経常利益	118	11	130	135	16	150	63	74	137	3	18	21	64	89	153
(同率)	8.5%	1.3%	5.6%	9.1%	2.2%	6.7%	8.1%	9.0%	8.5%	0.9%	3.9%	2.7%	5.8%	6.9%	6.4%
純利益	-	-	72	-	-	88	-	-	-	-	-	-	42	55	97
(同率)	-	-	3.1%	-	-	3.9%	-	-	-	-	-	-	3.8%	4.3%	4.1%

- ① 2018年3月期決算為替レート：1USD=112.39円、1ユーロ=126.84円、1タイバツ=3.31円
- ② 2019年3月期決算為替レート：1USD=110.58円、1ユーロ=130.38円、1タイバツ=3.42円
- ③ 2020年3月期想定為替レート：1USD=108.00円、1ユーロ=121.38円、1タイバツ=3.39円

①と②の為替差による影響 完成工事高：0億円、経常利益：△1億円

※2020年3月期業績予想において、全為替レートが1%変動した場合の影響額  
 ⇒受注・完工：約10億円、経常利益：約0.5億円

## (参考) 2020年3月期業績予想② 事業分野別受注工事高

単位：億円

	2019.3 実績 A			2020.3 予想 B			差異 B-A		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
<b>受注工事高</b>	1,185	1,233	2,418	1,112	1,286	2,398	-73	52	-20
(うち国内)	(756)	(542)	(1,298)	(577)	(728)	(1,305)	(-179)	(186)	(6)
(うち海外)	(428)	(691)	(1,120)	(535)	(558)	(1,093)	(106)	(-133)	(-27)
環境システム事業	884	701	1,585	700	910	1,610	-184	208	24
ビル空調	252	214	467	190	271	461	-62	56	-6
産業空調	632	486	1,118	510	639	1,149	-122	152	30
(うち国内)	(443)	(250)	(694)	(320)	(379)	(699)	(-123)	(128)	(4)
(うち海外)	(188)	(235)	(423)	(190)	(260)	(450)	(1)	(24)	(26)
塗装システム事業	300	532	833	412	376	788	111	-156	-45
(うち国内)	(60)	(76)	(136)	(67)	(78)	(145)	(6)	(1)	(8)
(うち海外)	(240)	(456)	(696)	(345)	(298)	(643)	(104)	(-158)	(-53)

### (環境システム事業部)

- ビル空調は旧耐震基準のビルの建て替え・リニューアル、再開発等のニーズが存続する見込み。
- 国内産業空調は電子部品メーカーが、第5世代移動通信システム(5G)や自動車の電装化に合わせ投資を継続する見込み。
- 海外産業空調は日系メーカーによる設備投資回復の見通しについては引き続き不透明感があるものの、需要は底堅く推移する見込み。

### (塗装システム事業部)

- 2019年3月期に欧州で大型案件の受注があったことにより、2020年3月期は反動減。
- 北米・欧州・日本などで設備更新投資、中国・インドなどで増産投資が継続する見込み。

## (参考) 2020年3月期業績予想③ 事業分野別完成工事高

単位：億円

	2019.3 実績 A			2020.3 予想 B			差異 B-A		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
<b>完成工事高</b>	988	1,265	2,254	1,106	1,284	2,390	117	18	135
(うち国内)	(550)	(641)	(1,192)	(652)	(653)	(1,305)	(101)	(11)	(112)
(うち海外)	(437)	(623)	(1,061)	(454)	(631)	(1,085)	(16)	(7)	(23)
環境システム事業	691	800	1,491	780	825	1,605	88	24	113
ビル空調	190	270	461	251	287	538	60	16	76
産業空調	500	529	1,030	529	538	1,067	28	8	36
(うち国内)	(313)	(300)	(613)	(339)	(293)	(632)	(25)	(-7)	(18)
(うち海外)	(187)	(228)	(416)	(190)	(245)	(435)	(2)	(16)	(18)
塗装システム事業	297	464	762	326	459	785	28	-5	22
(うち国内)	(46)	(70)	(117)	(62)	(73)	(135)	(15)	(2)	(17)
(うち海外)	(250)	(394)	(645)	(264)	(386)	(650)	(13)	(-8)	(4)

・2019年3月期に比べ、ビル空調事業で大きく増加する見通し。

# (参考) 2020年3月期業績予想④

## 利益

単位：億円

	2019.3 実績 A			2020.3 予想 B			差異 B-A		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
<b>経常利益</b>	38	112	150	64	89	153	25	-23	2
(同率)	3.9%	8.9%	6.7%	5.8%	6.9%	6.4%	1.9%	-1.9%	-0.3%
<b>環境システム事業</b>	65	70	135	63	74	137	-2	3	1
(同率)	9.4%	8.8%	9.1%	8.1%	9.0%	8.5%	-1.3%	0.2%	-0.6%
<b>塗装システム事業</b>	-28	45	16	3	18	21	31	-27	4
(同率)	-9.5%	9.7%	2.2%	0.9%	3.9%	2.7%	10.5%	-5.8%	0.5%
<b>親会社株主に帰属する 当期純利益</b>	9	79	88	42	55	97	32	-24	8
(同率)	0.9%	6.3%	3.9%	3.8%	4.3%	4.1%	2.9%	-2.0%	0.1%

### 【経常利益】

#### (環境システム事業部)

前期に比べ完成工事高は増加するが、労務費・材料費が上昇傾向にあることや、比較的採算性の高いリニューアル工事が占める割合が減少することなどにより利益率は低下する見込み。

#### (塗装システム事業部)

前期上期に北米の自動車塗装案件で発生した損失からの回復により、増益となる見通し。

### 【親会社株主に帰属する当期純利益】

・2019年3月期は特別損益がマイナスとなった影響を受けたが、2020年3月期はその要素が剥落し、増益の見通し。

## (参考) 事業を通じた環境貢献①

### 中国を中心に広がる排気処理技術

中国では環境規制が厳しくなるなか、VOCなどの有害な排気を処理する装置の需要は一層の拡大が見込まれます。

近年、中国では環境規制の強化が急速に進んでおり、環境を取り扱う政府や地方政府の関連機関による取締りが本格化しています。

また、中国の大気汚染に関する排出基準は、総量規制や常時モニタリングが取り入れられているエリアもあり、日本よりも厳しい基準が課されているケースも少なくありません。

このような環境規制をクリアするためには、高いVOC処理効率が求められることから、当社が得意とする酸化(燃焼)分解処理技術によるVOC排気処理装置への需要が高まっています。

とりわけ技術的に評価が高く、日系企業を中心に引き合いが多いのが切替型蓄熱式直接燃焼脱臭装置(RTO)で、特にVOC処理効率の高い3塔式のタイプが伸びています。

当社は中国全土で85台以上のVOC排気処理装置の実績があり、かつ現地での生産・調達体制も整えたことで、日本とほぼ同じレベルの製品を競争力のある価格でご提供が可能です。

今後も当社は、日系企業をはじめ多くの企業に、中国の環境規制の事例やアドバイス等を提供していくほか、中国の関係機関に対しても、大気汚染対策の技術PRを強化し、中国における環境負荷低減に、よりいっそう貢献していく方針です。

※VOC：揮発性有機化合物

#### ● 中国における施工実績

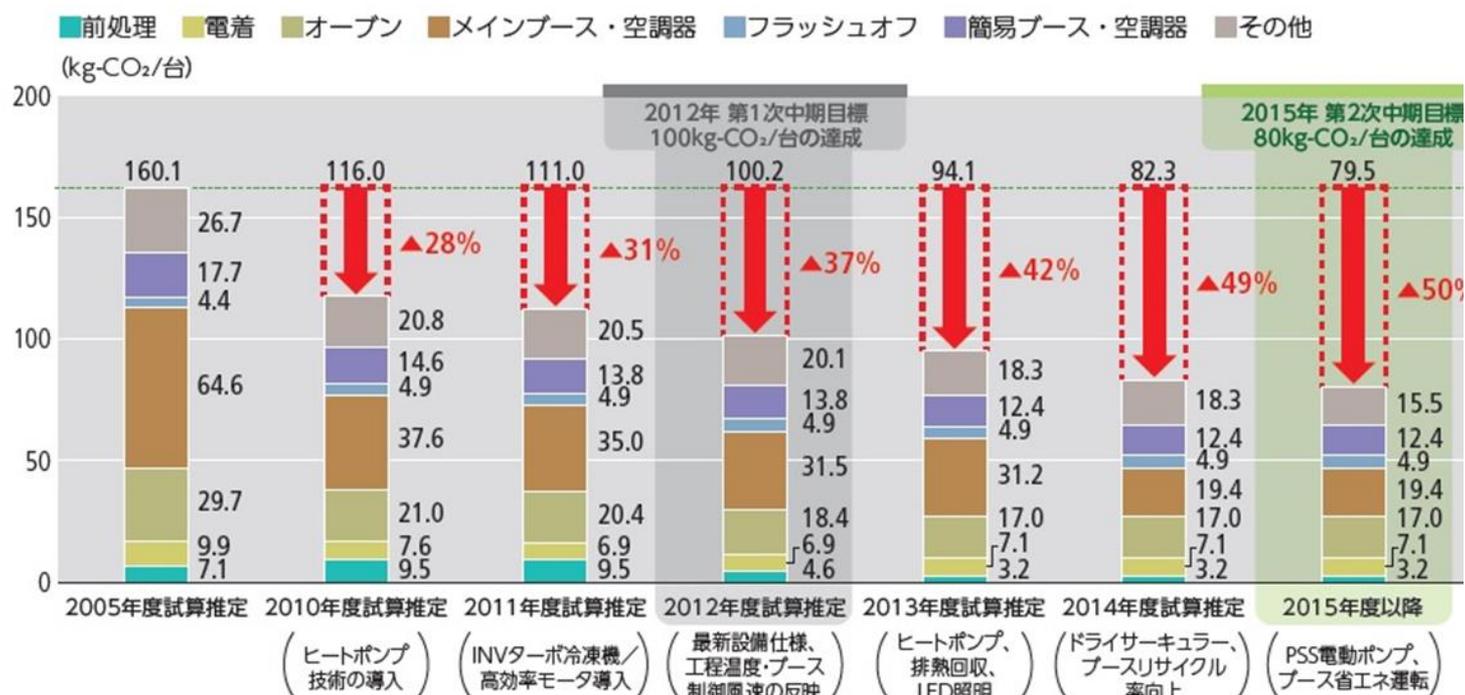


## (参考) 事業を通じた環境貢献②

### 自動車製造工場の塗装工程におけるCO2排出量の削減

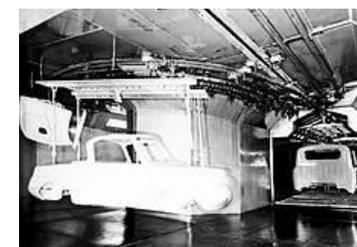
当社の技術提案の積み重ねにより、自動車生産台数1台あたりの塗装工程におけるCO2排出量が**2005年比で50%削減**

● 自動車塗装工場のCO<sub>2</sub>排出量試算 — 削減提案の推移と今後の目標 —



# (参考) 創立以来の歴史①

年	沿革
1913年（大正2年）	<p><b>「合資会社建材社」創業</b></p> <p>4月10日東京銀座で創業。 暖房設備、エレベータ、建築材料等のドイツからの輸入、およびその据付を主な業務とする。</p>
1918年（大正7年）	<p><b>建築設備事業を本格的に開始</b></p> <p>わが国初の近代的高層オフィスビルである「東京海上ビル」に、7階建て全館強制循環式温水暖房という画期的な設備を納入。高度な設計・施工能力を持つ暖房設備会社として認められるようになる。</p>
1934年（昭和9年）頃	<p><b>「繊維の時代」を支える</b></p> <p>紡績工場の空調への取り組みを強化し、製糸工程で重要となる工場内の温湿度制御や気流制御に関する高い技術力が顧客に評価され、この分野で業績を急拡大させた。 (産業空調分野進出の契機となった)</p>
1953年（昭和28年）	<p><b>自動車の塗装設備事業に進出</b></p> <p>日産自動車オースチン工場スプレーブース（塗装室）を受注。 塗装プラント事業に乗り出す。</p>



## (参考) 創立以来の歴史②

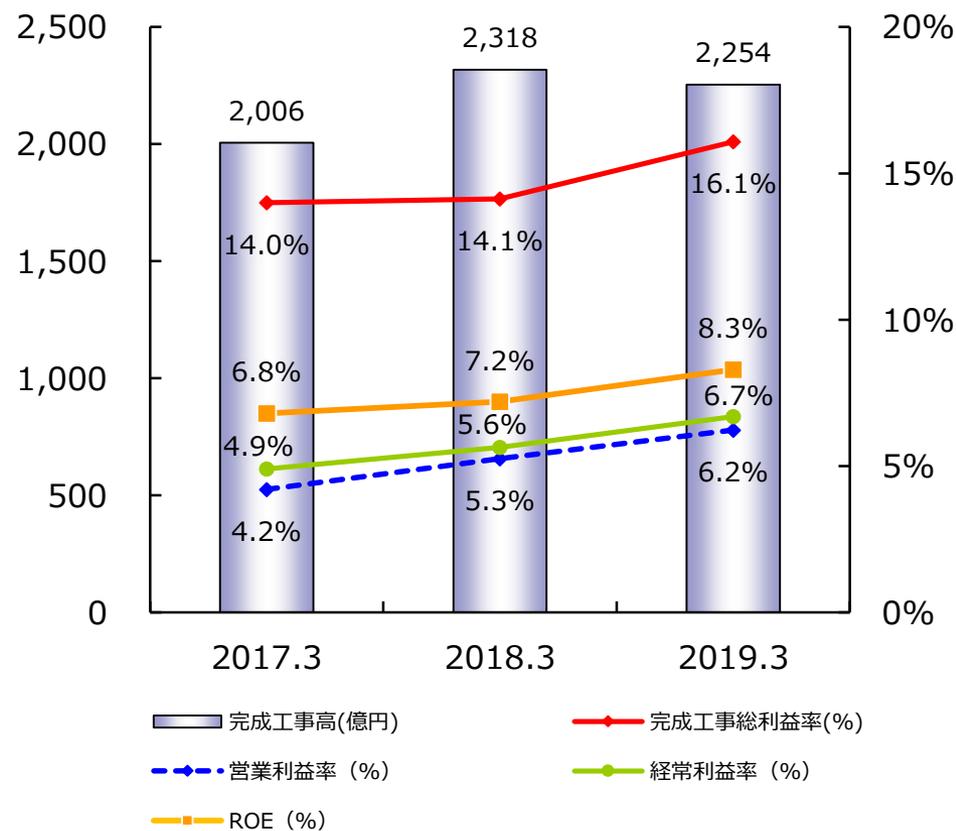
年	沿革
1954年（昭和29年）頃	<b>クリーンルーム事業の拡大</b> 薬品工場、精密機械工場、フィルム工場などでは、製品不良を防ぐため、高い清浄度を維持できる空調設備（クリーンルーム）が求められこれに応えるようになった。 「産業空調の建材社」と呼ばれるようになる。
1960年（昭和35年）頃	<b>国内の全乗用車メーカーから塗装設備を受注するようになる</b>
1971年（昭和46年）	<b>タイに初めて海外子会社を設立</b>
1973年（昭和48年）	<b>創立60周年を機に、社名を『株式会社大気社』に変更</b>
1974年（昭和49年）	<b>東京証券取引所市場第二部に上場</b>
1980年（昭和55年）	<b>東京証券取引所市場第一部銘柄に指定替え</b>
1981年（昭和56年）	<b>米国に進出、海外展開を加速させる</b>
1994年（平成6年）	<b>中国・北京に合併会社五洲大気社工程有限公司を設立</b>
2011年（平成23年）	<b>Geico S.p.A.社（イタリア・ミラノ）と業務・資本提携</b>
2013年（平成25年）	<b>創立100周年を迎えた（新中期経営計画を発表）</b>
2014年（平成26年）	<b>Encore Automation LLC(米国ミシガン州)と業務・資本提携</b>
2017年（平成29年）	<b>BTE Co., Ltd.（タイ）と業務・資本提携</b>



# (参考) 業績の推移①

単位：億円

	2017.3	2018.3	2019.3
完成工事高	2,006	2,318	2,254
完成工事総利益	281	327	362
(同率)	14.0%	14.1%	16.1%
販管費	196	205	222
(同率)	9.8%	8.9%	9.9%
営業利益	84	121	140
(同率)	4.2%	5.3%	6.2%
経常利益	98	130	150
(同率)	4.9%	5.6%	6.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	63	72	88
(同率)	3.1%	3.1%	3.9%
ROE	6.8%	7.2%	8.3%

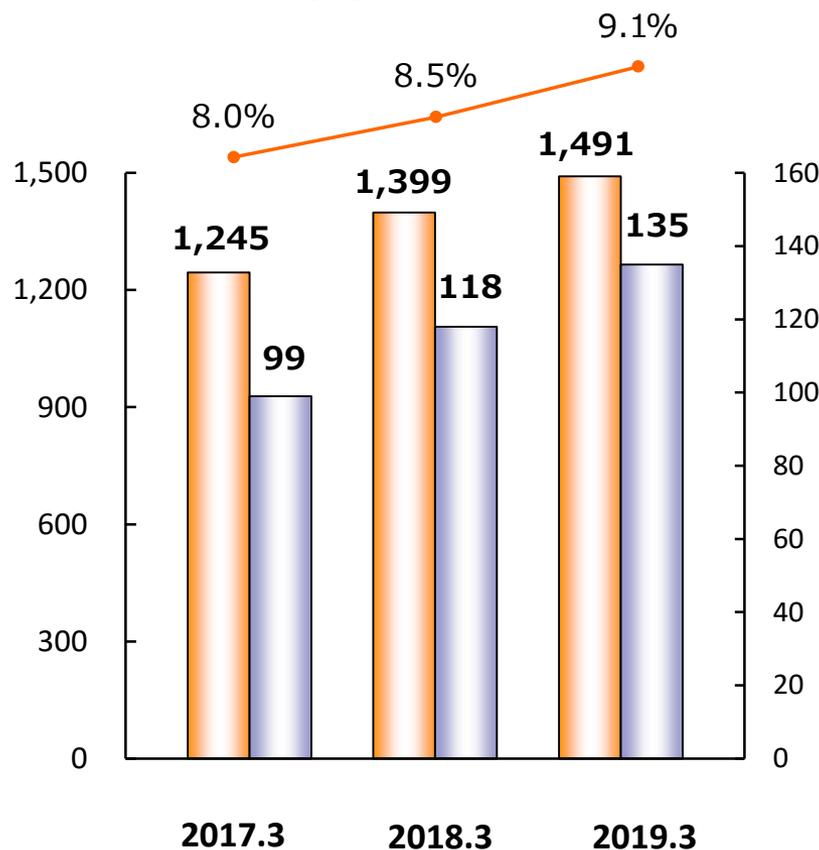


## (参考) 業績の推移②

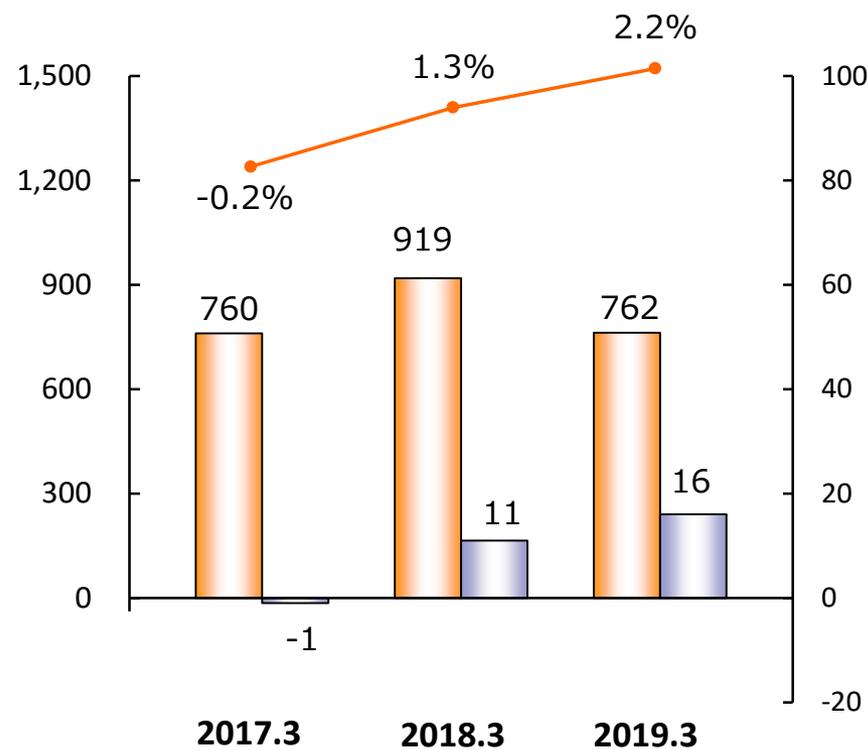
### 報告セグメントごとの完成工事高及び経常利益

単位：億円

#### 環境システム事業



#### 塗装システム事業

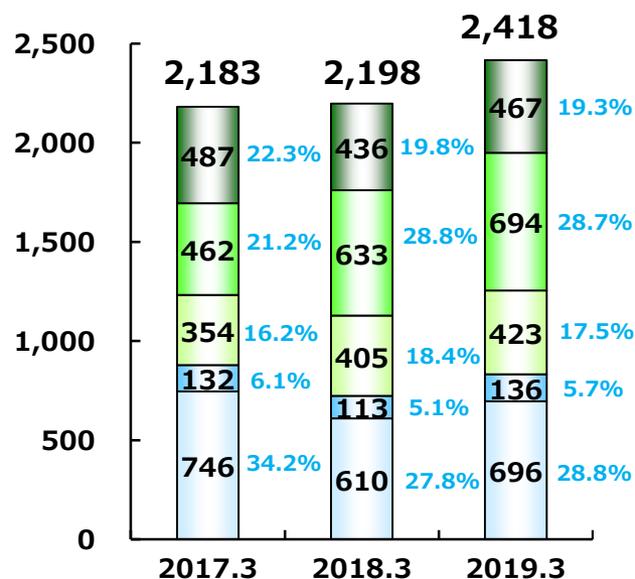


# (参考) 業績の推移③

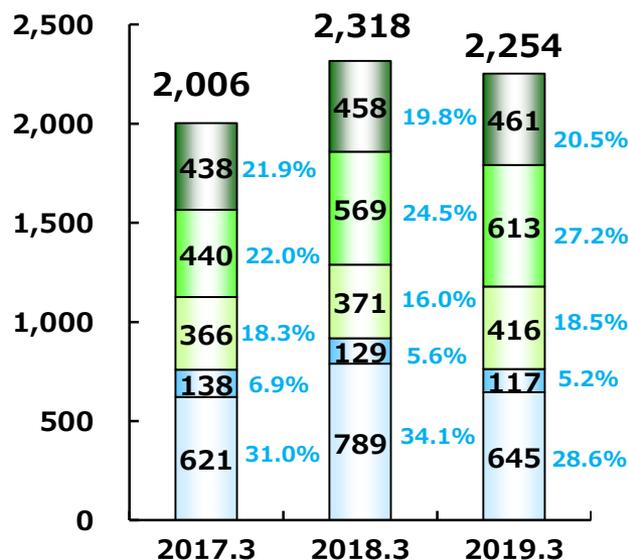
## 受注工事高 / 完成工事高 / 繰越工事高

単位：億円

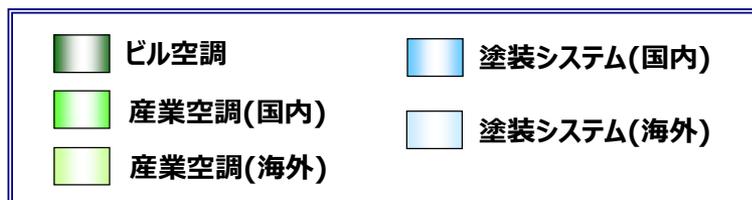
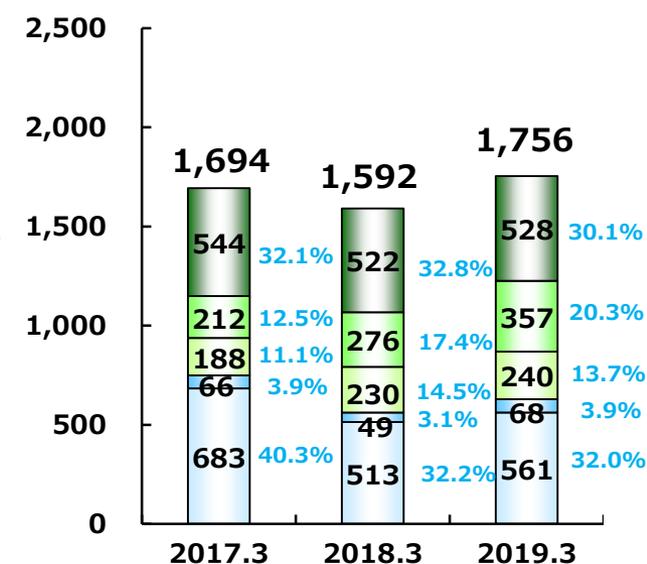
### 受注工事高



### 完成工事高



### 繰越工事高



## (参考) 連結貸借対照表

単位：億円

科目	2018.3	2019.3	増減
<b>流動資産</b>	1,590	1,689	99
現金預金	471	521	49
受取手形・完成工事未収入金	1,019	1,047	27
有価証券	-	10	10
未成工事支出金及び 材料貯蔵品	24	32	7
その他	79	83	3
貸倒引当金	-5	-4	1
<b>固定資産</b>	563	541	-22
有形・無形固定資産	155	149	-5
投資有価証券	307	293	-13
その他	101	98	-3
貸倒引当金	-0	-0	-0
<b>資産合計</b>	2,153	2,230	76

科目	2018.3	2019.3	増減
<b>流動負債</b>	937	987	50
支払手形・工事未払金等	605	558	-47
未成工事受入金	118	147	29
工事損失引当金	4	4	△0
その他	208	277	69
<b>固定負債</b>	110	106	-3
<b>負債合計</b>	1,047	1,094	46
<b>純資産</b>	1,106	1,136	29
資本金	64	64	0
資本剰余金・利益剰余金	859	922	62
自己株式	-24	-24	△0
その他有価証券評価差額金	132	118	-14
繰延ヘッジ損益	0	△0	△0
為替換算調整勘定	11	1	-9
退職給付に係る調整累計額	8	5	-2
非支配株主持分	54	48	-5
<b>負債純資産合計</b>	2,153	2,230	76

## 将来の見通しに関するご注意事項

本資料にて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手可能な情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。またこれらの情報が、今後予告なしに変更されることがあります。

従いまして、本情報および資料のご利用は、他の方法により入手された情報とも照合・確認し、ご利用者の判断によって行ってくださいますようお願いいたします。

本資料ご利用の結果、生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

**本資料に関するお問合せ先**

**株式会社大気社 管理本部 企画・広報課**

**TEL : 03-5338-5052 FAX : 03-5338-5195**